

「後志利別川流域タイムライン検討会」 発足式

(第4回後志利別川水系外大規模氾濫に関する減災対策協議会)

平成29年9月13日(水)にせたな町民ふれあいプラザにおいて、「後志利別川流域タイムライン検討会」発足式を開催しました。タイムラインは、後志利別川で水害発生の可能性がある際に、早い段階から関係機関が連携して地域住民及び防災対応者の安全確保を図るための事前防災行動計画のことです。後志利別川流域では平成30年度からの運用を目指し、関係機関が集まり検討会を開始します。

- 開催日時 平成29年9月13日(水) 14:00 ~ 17:00
- 実施場所 せたな町民ふれあいプラザ 1階大ホール
- 参加機関 せたな町、今金町、防災関係機関 20機関 51名
- 来場者数 約80名(一般傍聴者含む)

第1部 流域タイムライン発足式

発足式は第1部の発足式と第2部の勉強会で構成され、開会にあたり函館開発建設部の菊池部長より挨拶があり、「大雨はどこで起きてもおかしくない状況にあり、日頃から防災・減災に対する備えが大切だ。検討会を通じた地域防災力の向上に期待する。」と述べました。

その後、今金河川事務所の秋山所長より、本検討会の目的と参画する機関、及び今後の検討スケジュールについて説明がありました。



函館開発建設部
菊池部長



函館開発建設部
今金河川事務所
秋山所長

講演「近年の水害とその教訓、水害タイムラインとは？」

第1部では、本検討会のアドバイザーである東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センターの松尾一郎客員教授を招いた講演が行われました。「近年の水害とその教訓、水害タイムラインとは？」と題した講演では、平成29年に発生した九州北部豪雨災害の現地を視察した時の様子も交えながら、豪雨災害の発生は近年増加傾向にあり、これまでの防災対応では限界があると、タイムラインの効果と各地の運用状況とともに紹介し、地域の防災力向上を訴えました。

第1部の最後は函館地方気象台の宮尾台長、せたな町の高野副町長、今金町の外崎町長からタイムラインへの期待が述べられました。



発足式の様子



東京大学大学院情報学環
松尾客員教授



函館地方気象台
宮尾台長

第2部 流域タイムライン勉強会

第2部の勉強会では、函館地方気象台の松川水害対策気象官より、檜山地方の雨の特徴と気象庁が平成29年の出水期より運用を開始した、危険がせまる時間帯を知らせるための新たな情報についての説明がありました。

その後、今金河川事務所の秋山所長より、インターネット等から得られる川の防災情報の紹介と、平成28年8月の北海道における大雨による洪水被害状況等についての説明がありました。



せたな町
高野副町長



今金町
外崎町長

せたな町・今金町での水害対応について

せたな町原総務課長と今金町の寺崎まちづくり推進課長から、両町の過去の水害とその対応について紹介がありました。

質疑応答では、住民の参加者より、防災無線の早期の整備についての質問が出るなど、盛況のうちに閉会となりました。



函館地方気象台
松川水害対策気象官



せたな町総務課
原課長



今金町まちづくり推進課
寺崎課長